

ケラ



ケラ(早朝の池河内湿原にて:2003. 7. 28)

手がシャベルで、体がコオロギのような昆虫といえば、ケラです。畑をほりおこすとごそごそと土の中から這い出てきます。体長は3 cm程度で、少年時代「オケラ」と呼んでいましたが、砂地に多く、簡単に捕まえることができ、手の中に入れるととてもすぐたくて面白がって遊んだ記憶があります。ケラは英語で「Mole cricket」、つまり「モグラ・コオロギ」と呼ばれています。和名のケラは土を「蹴る」ように掘りかえすことからついたものといわれています。

モグラとの共通点が多いからですが、いくつか挙げておきましょう。

まず、

①前足の構造がそっくりである。つまり、前足がモグラのようにシャベル状に特殊化している。

②短い毛で全身が覆われている。

などで、これらはトンネル内で生活するのに適しています。また、写真でも判るように、天使のような小さな翅ですが、飛ぶことも出来ます。

皆さん、ケラのなく声を聞いたことがありますか？

昔、福助足袋という足袋(たび)の会社がありました(今もあるのでしょうか?)が、その会社の宣伝用の歌にこんなのがありました。

「ゆうべミミズの鳴く声聞いた あれはケラだよオケラだよ オケラなぜ鳴く あんよが寒い 足袋がないから 鳴くんだよ」……。

夏の初め、「ジー」と低くなく声を聞いたことがありませんか。あれがケラの鳴き声です。土の中から聞こえてくるため、昔は「ミミズの鳴く声」であるといわれていましたが、これはケラがトンネル内で翅をこすり合わせて発する摩擦音ですが、トンネルの形状がスピーカ効果を生んで、ラブコールが増幅されるそうです。

「オケラの7つ芸」と言われるように、「何でもやるけど、いずれも中途半端な人物を

擲楡することば」として使われています。これは、ケラが昆虫として、「穴を掘る、飛ぶ、木に登る、鳴く」など、色々な特技を持っているにもかかわらず、いずれも中途半端で秀でたものがないところから来ているようです。なお、和名の「ケラ」は、足で土を蹴るところから「蹴る」がなまったものといわれています。
